

授業科目 高次脳機能障害評価学

【担当教員名】 能登 真一		対象学年	3	対象学科	作業
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	◎	◎	
【概要・一般目標：GI0】 脳損傷によって生じる失語、失行、失認、半側空間無視などの高次脳機能障害に関して、個々の症状や定義、メカニズムを理解するとともに、各症状を検出するための評価方法を身につける					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害の個々の症状の定義を述べることができる 2. 個々の症状を具体的に説明することができる 3. 個々の症状を検出するための検査方法を列挙することができる 4. 検査方法のいくつかを実施できる 5. 様々な評価結果から全体像をまとめることができる 6. 高次脳機能障害に関心を持ち、真摯な態度で学習できる 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	大脳の機能解剖と高次脳機能の局在			1, 2	講義
2	失語の臨床像			1, 2	講義
3	失語の評価			3, 4	講義, 演習
4	失行の臨床像			1, 2	講義
5	失行の評価			3, 4	講義, 演習
6	半側空間無視の臨床像			1, 2	講義
7	半側空間無視の評価			3, 4	講義, 演習
8	失認の臨床像			1, 2	講義
9	失認の評価			3, 4	講義, 演習
10	前頭葉症候群の臨床像			1, 2	講義
11	前頭葉症候群の評価			3, 4	講義, 演習
12	認知症の臨床像			1, 2	講義
13	認知症に対する評価			3, 4	講義, 演習
14	評価結果の解釈と全体像の把握			5, 6	講義
15	まとめ			1～6	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		標準作業療法学 高次脳機能作業療法学	能登 真一 編集	医学書院	2012・3,800円＋税
参考書		高次脳機能障害マエストロシリーズ(3)リハビリテーション評価	鈴木 孝治 編 他	医歯薬出版	2006・2,600円＋税
その他の資料					
【評価方法】 出席約10%＋期末試験約80%＋態度約10%によって総合的に判定する			【履修上の留意点】		